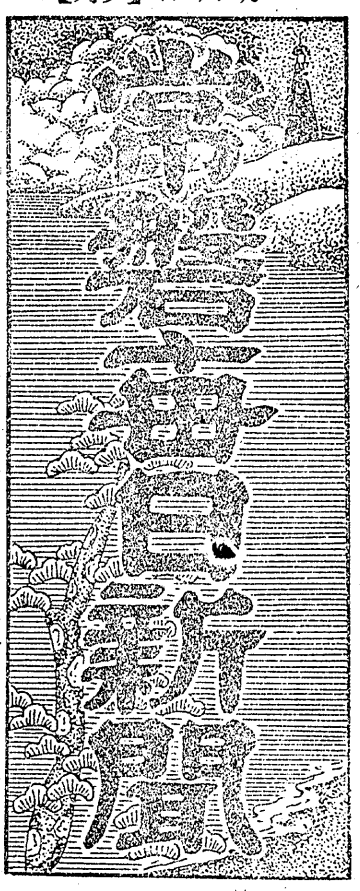


【刊夕】日六月一



原五稅郵錢十五月一錢貳金部一
錢十五行一語字三十號五料告廣
治文崎川入刷印人輯編兼行發
五三町橋長町平郡城石縣島福
番〇三六話電社聞新日每警常所行發
社會式株刷印日每警常所刷印

ある歌友への私信

白木英尾

A君、お手紙ありがとうございました。大變御元氣な様で私はずっかり安心しました。病氣になつて始めて健康が戀しまれて来たでせう、それで丁度なんです。今度の御手紙を読んで私はいつのまに君がこんな事を言へるやうになつたかとい種の驚異感に打たれました。だが、成程私が作歌の態度を明かにするのはよいでせうが、今のところ私はその必要に迫られておないので、「火耀短歌」が接觸する社會面は如何にも廣範なやうに見えますが只そのみの故に積極的な行動を取るほど私の立場が切迫してゐると思はれては何だか不愉快な感じがします。然しいつかは君の言ふやうな場合が起るでせう、その時になつてからでも私は遅くあるまいと思つてゐます。君がもしも讀書をゆるされるやうでしたら島木赤彦氏の「歌道小見」をお讀みなさい。きつと啓發されるところがありますから殊に「萬葉集」に就いての知識はアラ、ギへ進むのでなかつた

らあれを讀んだ、けで充分でせう。前田先生との論争も面白く書いてあります。議論なんていふものは總て感心させるやうに出来るものなんです。君の歌稿、一度にあんなに寄越されて困つちまいます。死んだら——つてそんなにピン／＼して居るぢやありませんか。自分自らを心細がつてゐながら私の方まで頼りなく思ふのは君の悪い癖です。何故早くよ／＼なつて一緒に手を携へて進まうと言つてくれないのです。お正月だつていふのに君はほんとうに可哀想です。歌留多取りなんか忘れてしまつたでせう。あの最初に讀む空句にもいろ／＼な變遷

があります。近頃は啄木の歌や牧水の「幾山河……」といふの等を耳にしますがこれは面白い現象だと思ひます。空句といふのが向上したのでせうか、或いはあゝいふ歌が下落したのでせうか。だん／＼には今の偉い人達が作つてゐる五七調の舊短歌から新百人一首といふのが出来てお嬢さん達の手に弄ばれる時代が来ないとも限りません。又ひそかにそれを夢みてゐるお方がないとも限りません。そうなると思ふ面白くなつて来ます。またその中何か書きます。軀を御無理なさらないやうにして下さい。ではさようなら

火耀短歌

官製はかき一葉三首
宛名は本社文藝部
締切は毎週土曜日
岡田綾子

氣づまりな會話からやうやく解放されて一頻り咳の出るまゝにゐる

お別れださあもういちど手を握ろうよ、空は晴れてるぞ

菊川康夫

大川の水の流れば冷々し邊りにあまた鳥の啼きゐる

白木英尾

貴婦人然と控へたデブの、何が「まあ左様でございますか」だ

度量衡、計量器、吸入
用酸素、酸素吸入器

關内藥局

電話四〇番

ヨウモーターン!
い服を求めたね
斷然三〇年型だよ
いやコレカネ
物の……「ソレ」

正札堂



六三四電通場車停目丁四町平

杵壽司の
煮おでんと
御料理で
是非一杯召上れ
(鮭の種は常に色々
取揃へてあります)

電六七九番

出前迅速

看護婦急派
の求めに應
じます

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

磐城セメント會社特約店

久全産屋商店

磐城平〇五丁目 電話九番九九番

△良品廉賣に勝る商略なし
△確實敏捷は釜屋の生命なり

美味、滋養

シユウクリーム

一ツ五錢

目丁四平
ヤトモツマ
番四一二話電

嚴冬——征伏の王者



△ストロブは……
フクロクストロブを御選定下さい

一、最も安い石炭で最も良く燃えるストロブは
フクロクの右に出づるものはありません

二、石炭商の立場より各種のストロブを嚴密試験の結果
始めて理想的フクロクストロブを見え出しました

●御希望の方へカタログを持參して御説明申上ります何卒御下命を……

平停車場前

福島縣總代理店

阿部石炭商店

乗降客が 縣下第一位

斷然他の三驛を凌駕して

昨年一月以降十一月までに於ける福島、若松、郡山、平各驛の汽車乗降客比較は左の如くで人口では最も少い平が乗降共斷然他の三驛を凌駕してある

乗客數
福島驛 六六〇、〇〇二人
降客數
六四七、六四六八

若松驛 四八二、〇〇一人
郡山驛 七二八、〇四六八

平驛 一、〇五一、〇七一人
一、〇二一、八三二人

茶種栽培 豫期以上に

石城郡農會では二毛作獎勵策として茶種の栽培を大いに勸奨その指定試作地三反歩及び一般栽培地約二町歩に栽培中であるが生育状態は頗る良好で大部分本田定植を終了したが目下の模様では豫期以上の成績を挙げらう

大野村長 中野幸平氏當選

石城郡大野村の村長選舉問題は政民兩派の紛糾から既報の如く縣當局は代理村長まで設けるに至つたが舊職木田代理村長の手で最後の村會を招集決戦投票を行つた結果遂に民政派の中野幸平氏が七對五で當選した

遂行に關し協議を遂げた
兒童性能試験 頗る良好
養蠶組合協議 石城郡養蠶同業組合では来る七日午前七時より石城郡團體事務所樓上に郡内各町村勸業主任會を招集農、漁、山村救濟案に基づく桑園改良資金の借入並に右に依る事業

色魔の 柳田を捕縛する迄

有名「大原」あたりから、さすがは房總線一名遊覽線の名にそむかず、窓外の風景は頗る宜く、海あり島あり磯あり山あり松ありで、僕等の如うな無風流漢にも一句ひねつて見たい程だが相憎く其の方の頭腦を持ち合せがなかつて、お氣の毒様。

有名「大原」あたりから、さすがは房總線一名遊覽線の名にそむかず、窓外の風景は頗る宜く、海あり島あり磯あり山あり松ありで、僕等の如うな無風流漢にも一句ひねつて見たい程だが相憎く其の方の頭腦を持ち合せがなかつて、お氣の毒様。

老子曰「天網恢恢疎而不失、まさかには彼奴が東京よりあまり程遠からぬ、房總地方に巢を造つて、ところが例の毒牙を振り廻して居やうなどとは思はなかつた。多分は朝鮮、満州か南清の上海あたりへフツ飛んで居るとの思つて居つたに、十二月十五日午前十二時五十分平驛發の準急で、被害者の一人吉田正雄君と、藝妓屋橋家の代理壽々喜亭主人鈴木寅次郎さんと、僕との三人で乗り出し、上野驛へ着いたのが朝の五時五十分、それから吉田君の定宿山下館に落ち付き朝湯をひと浴びして、朝飯を済まし、サア何事も緊縮だ、たむ「半タク」を拾つて呉れ以上柳田探索の第一歩。兩國橋驛を發したのが午前十時「千葉」「大網」と汽車は進んで、海水浴場として

ののか、今更彼奴をフン捕まへて見た處が一丈にもなる譯でもなし益々泥棒に追つて置いたのでは又ぞろ房州方面の人々が泣かされるにまきつてる、此處は泥棒に追銭なんぞと、物質にとらはれず男子として義憤的に社會奉仕的にも彼奴柳田を社會から葬むつてしまはうではないか、それにあの時被害者たる君は無論の事それに連れて僕等までがあの苦しみ今以て未解決のもあつてお互ひに苦しんで居るのだ、此の思ひ丈けでも晴らさなや、此の腕が承知が出来ねえ、野郎腕づくで來りや、刃物や飛道具でも持つて居ない限り、僕達だつて學生時代に生かちつた柔道で叩きつけて、勿驚一と拳固く圓だ、利息までつけて、五ツ六ツぶつくらうけて警察へ突き出してしまふぢやないか、年の瀬のことなぞ考へるな、如何うにかなるか、如何うにもならなかつたら如何うにかするさ、サア出掛けべえ。

愛馬散

小野屋藥店

内羅專門妙藥

小野屋藥店

梅毒 淋病

松村 院醫科

明日のラジオ

七日

毛糸

ハシモトヤ

丹野齒科醫院

夜間も診療致します

冬のサロン

暖かい御飲料

冬の日

今日晩は雪明日は天気よくなる見込み

けふの火防デーに 消防出初め

吉例ハシ子登り 各功勞者を表彰

鳴り物入りの火防宣傳

既報平消防の出初めは本日
の火防デーを卜し午前六時
警鐘一點打を合圖に組員一
同平署前に

勢揃ひを爲し各班に

分れて吉例のはし子登りに
繰り出し各町に活況を添え
午後一時半から平署會議室
に於て出初式を舉行、開會
の辭に次ぎ左記各表彰あり
櫻村平警察署長の訓示、井
上消防組頭の挨拶、伏見町
長其他來賓の祝辭あり祝宴
を催し一方

新川端

には蒸氣、ガ
ソリンの各唧筒參集放水試
驗を行ひ水龍天に沖して壯
觀を呈した、尙ほ平署員は
自動車を飛ばして鳴物入り
の火防宣傳を爲し小學兒童
の旗行列等賑々しく一般人
の胸に防火思想を叫び起さ
しめた

△永年勤續表彰者(三十
ヶ年)松本忠次郎(二十
ヶ年)宗像國治(十五ヶ
年)高田清一郎 同正木廣
造 同新井淺右工門(十
ヶ年)消防手猪狩廣吉 大
内昌吉 永山眞彦 菅本
市之助 堀滿正 遊倉藏
永澤義一 猪狩傳 高木
宇平 鈴木榮助

新川町 月見町 六七丁
目 第十七區 第十六區
材木町
△永年勤續者
(三十年以上)消防手市川
長作 小頭高根澤長太郎
(二十五年以上)伍長湧井
兼作 同根本幸次郎 小
頭岡田政次郎(二十年以
上)副組頭石坂詮太郎 部
長鈴木長三郎 伍長田中
宣治 消防手小松福松
同鈴木喜一郎 同古山吉
之助(十五年以上)部長柏
原幸次郎 小頭鈴木彌太
郎 同高野得助 同三井
富吉 伍長佐川三良 同
阿部治作 同高木福太郎
消防手谷野順壽 同大和
田伸次 同竹俣政記 同
辻金太郎 同大野松之助
同菊田萬吉 片寄敬太郎

△本期間精勤者表彰
辻金太郎 古山吉之助
大野松之助 小菅榮之助
片寄敬太郎 堀滿正 今
田義惠 猪狩廣吉 小川
勿來丸 鈴木德義 渡邊
三郎 眞岡文平 山野邊
昇 鹽源太郎 石川俊
眞弓萬助 市川長作 綠
川茂 藤田專吾
△火防組合表彰
四丁目 田町 二丁目

鳴り物入りの 宣傳が圖に當り

どの店にも相當な客足 但し酔客は見えぬ

平町の商家は正月も多く舊
曆の慣行になつてゐるため
門松や注連が飾られても各
地程正月の氣分は濃厚でな
いが、それでも勤人當込の
商店街が年始大賣出しの鳴
り物入り宣傳がまんと圖
に當つてどの店も客足は相
當あつたらしく「この分
行くと舊正月もさう悲觀し
たものぢやありません」と
有卦に入つてゐる店もある
位、だが町を歩いて例年
の様に踏躑躅の酔客の姿
はトーンと見かけない

雄辯入賞者

審査の結果
石城郡神谷村黎明會主催第
二回郡下男女青年雄辯大會
は三日午後六時より平町聚
樂館に開催したが聴衆本百
名に上り近來にない盛況さ
を呈した、追つて審査の結
果左の四名入賞、一等片寄

手藝編物講習 石城
郡湯本町女子青年團主催で
三日から五日間同町小學校
に手藝編物講習會を開催

等君は福島縣青年聯合雄辯
會に出場の資格及び旅費の
支給を受ける権利を得た
一等草野村片寄等▲二等

情死か?逃走か? 鹽屋岬燈臺下に 衣類其他遺留品

湯本の藝妓と洋服屋徒弟

昨日午前十時頃石城郡豐間
村鹽屋岬燈臺下岩頭に男女
の衣類被捨て、あつたの
を附近の漁夫が発見其筋に
急報したが取調べの結果衣
類の外に男女の下駄及び寫
眞あり夫れを手懸りとして
捜査した處石城郡湯本町藝
妓屋千代芳の藝妓文枝(二七)
及び同町天王崎樋口洋服店
の徒弟貝泊村生れ蛭田正千
代(三〇)の兩名の遺留品と判
明情死したのではないかと
附近の海中を捜索したが屍

各濱大漁

續々入荷す

一月に入つてから石城各濱
共可成りの漁獲で鰯は各濱
共多く灘引物は江名町の中
ノ作濱が第一で五日は茨城
欠慈、那珂方面からメジ鮪
が自動車一臺程入荷あつた
が相場は三十割であつた

運轉手と車夫が 萬引の同盟

三十數件にわたつて

石城郡好間村字北好間自動
車運轉手小林清七(二七)及び
平町二丁目人力車車夫渡邊
金造(二七)假名の兩名は共謀
して十二月八日平町三丁目
洋品商馬目辰次郎方店頭か
ら財布及び洋物類七點(價
格十五圓)を萬引し更に卅
日には同町新川町諸橋吳朝
店大島一疋(價格六十圓)を
窃取した外卅數件の萬引を
した事發覺四日平署に檢舉
された

賃金を値下

製綿組合總會

石城郡平町製綿業組合では
四日午後六時より同町炭屋
旅館に組合總會を開き工場
法に關する諸種の打合せを
なし次いで從業者の賃金値
下に就て次の通り決定した
男工は従來一圓五十錢であ
つたものを一圓二十錢とし

けふ小寒入り
寒氣さびしく
なりました
今六日から小寒に入
るが、小名濱測候所
では北支那方面の高
氣壓が次第に發達し
來ると共に寒氣も相
當厳しくなり氷點下
の氣温を持続すると
發表した

松の木に ブラ下つた洋服男

所持品は手拭一本

あつた爲である
貫つて重寶
贈つて便利な
三の品商
店服吳井三

火災損害額

植田署の調べ

植田警察署管内昭和五年中
の火災數は十件で前年に比
して七件を増しその損害額
は二萬五千圓に達し前年よ
り一萬五千圓を増したがこ
れば五月中大日本炭坑の長
屋三十一戸の焼失の火災が

新年早々
紛失と盗難
何れも大金
石城郡下小川村字小川白畑
一〇五早野一は去る二日平
町からの歸途平窪村地内で
一百圓在中の風呂敷包みを
紛失▲同郡江名濱町大字長
崎千疊敷二八番地阿部留夫
は百圓紙幣を自宅の戸棚に
保管中何者にか窃取された
と何れも二日新年早々平署
に届出た

一冊の代金で 五冊の雑誌が 自由に讀める

御希望通りな
川崎巡
回文庫
電話六三〇番
(申込次第規則書進呈)

